

# 挑戦

Vol.12

発行日 平成 14 年 7 月 22 日

発行者 吉村研究室 新聞委員会



## 第 12 号発刊にあたっての挨拶

研究室主任 吉村 昇

吉村研究室の卒業生、修了生並びにセンサ工学研究会の会員の皆様に「挑戦 12 号」をお届けする時期になりました。お変わりありませんでしたか。暑い日が続いて居りますが、体調には十分に気をつけられて、職務に精励されますことを祈念致しております。

平成 14 年度は 4 年生が 13 人配属となり、他の大学院生（博士課程 5 人、修士課程 9 人）と合わせて 27 人の大世帯です。日本学術振興会博士研究員の熊谷誠治君も 3 年目となり新たに電力経済システムの研究で頑張っております。今年度は 4 年生の就職は苦戦の様子です。昨年とは変わって厳しい状況です。大学院進学希望者は今のところ 4 人とのことで、残り 9 人の就職が無事決まることを祈っております。

私は、この 4 月より再度工学資源学部長を務めており、忙しい日々を送っています。まだ、3 ヶ月より経っていませんが、1 年以上も仕事をした感じです。

北東北三大学（秋田、岩手、弘前）の再編・統合という話もマスコミ等で報じられていますが、工学資源学部は平成 10 年 4 月に新たに誕生したばかりでもあり大地に根づいた、個性のある学部作りを目指して努力している最中であります。

この 9 月より、研究室の入居している 1 号館は全面改修となります。来年 3 月末には改修も完了し、立派な建物に変わることでしょう。その時はきっと素晴らしい研究成果を挙げてくれることを期待しています。

吉村研究室一同力を合わせて、何事にも挑戦する気概で日々頑張りますので今後とも叱咤、激励をお願いする次第です。1 年に 1 回だけの絆ですが、これを機会にメールで結構ですのでお便りを下さい。

盛夏

## 研究室の出来事

# 吉村先生、工学資源学部長に就任

吉村先生が今年の4月から秋田大学工学資源学部長に就任されました。今回で通算5回目の学部長となります。先生の意欲、熱意には見習うべきところが多く、今後もより一層ご活躍を期待しています。学部の仕事と研究室の行事など今まで以上に忙しい立場になられますが、これまでのようにお体に気を付けて頑張ってくださいと思います。



国立大が再編・統合や法人化への対応を迫られる時期に、学部のかじ取り役を任せられ、「鉱山学部からの改組(平成十年)時に学部長だった経験を生かし、教育研究や社会貢献の体制を再構築せよという、若い教官たちの負託があると思う」と語る。鉱山学部の歴史と伝統を受け継ぐ現学部に「他大学にない特色と国際貢献も可能な基礎的力がある」と自負する。その上で「資源系は高度化するリサイクル分野を視野に、世界に通用する研究と人材を生み出す基盤整備が必要。工学系は教官同士の競争の中で際立つ特色を確立したい」と展望。「学部が大きな力を発揮することが、大学改革にもつながる」と力を込める。(秋田魁新聞より一部抜粋)

## テハミングクの留学生

今年4月から博士後期課程1年として新しく研究室に来られた尹 鍾賢(ユン ジョンヒョン)さんをご紹介します。尹さんは昨年の10月頃に研究室にいらっしゃいました。日本語は勉強中で、会話を聞き取るとは大体できますが、話す方が難しいそうです。以下に尹さんの自己紹介文を掲載します。

\*\*\*\*\*

私は韓国からの留学生、尹 鍾賢(ユン ジョンヒョン)ともうします。生年月日は1973年4月12日です。出身地は慶尚南道昌原市(KyungSangNamDo ChangWon City)です。ソウルから高速バスで5時間、プサンから45分かかります。韓国の計画道市として住居空間と工業団地が分かれています。有名な研究所と機械工業団地が位置しています。現在の人口は約52万人です。

私の家族は両親とお姉さん2人の全部で5人です。お姉さんたちは皆主婦です。恋人は同じ大学の出身であり、恋愛期間は4年です。職業はコンピュータ学院の講師です。8月に帰国し、婚約式をして今年12月に結婚する予定であります。

学力事項は1992年3月に慶南大学(KyungNam Univ.)電気工学科へ入学して1999年2月に卒業しました。1992年3月から2001年2月まで韓国仁川市(Inchon City)の仁荷(Inha Univ.)大学院電気工学科修士課程へ在学しました。修士の研究テーマはPVDFとP(VDF-TrFE)高分子薄膜でありました。

日本へ来た時は9ヶ月ぐらいになりましたが、まだいろいろ不足です。吉村研究室の皆さんどうぞよろしくお願ひ致します。

\*\*\*\*\*

# 水戸部先生AMERICAN

このたび、われらが水戸部ティーチャーが Cambridge, Massachusetts, USA の Massachusetts Institute of Technology (M.I.T.) 大学の AgeLab へ H14.12.1 から H15.9.28 まで行くことになりました。目的は、M.I.T. との共同研究で、テーマは「高齢歩行者事故の日米比較と交通事故防止のための知覚運動特性に関する研究」です。出発にあたり、私達に English で一言いただきました。

## *Enjoy your study, more!*

皆さんこの機会を利用して海外旅行・卒業旅行はぜひアメリカに！

## 一号館改修工事予定！



我々の移住場所（研究室および実験室など）である工学資源学部一号館が、老築化のため改修されることが決まった。改修期間は今年の8月中旬から12月頃と予定されている。基本的には共-326と共-327の教室へ部屋を移動することになっているが、計画当初から具体的な内容に不明な点が多く、いまだにどうなるのかわからない。また引越し作業がかなり面倒であり、修論・卒論等にも影響が出ることから研究室では改築自体必要であるのか疑問視する声もあがっている。

## 研究室のネットワーク事情

近年の情報処理社会のネットワーク化に伴って、学生のPC所有率が毎年高まっているような気がします。このせいか、今年は6月末で4年生の机がほぼすべてパソコンで埋まってしまうという状態です。これは毎年の傾向で予測できたことですが、やはり昔と比べるとその違いに驚かされます。学生サーバは去年と同様で今にも止まりそうな(実際よく止まる)レトロPCで、ここだけが常に変わらないのはある意味安心します。このようなPCおよびインターネットの普及が著しくなるにつれ、不正アクセスによるデータ漏洩などがここ最近頻繁に起きているようです。これは個人が気をつけることが最も効果的なのですが、なんと319の部屋にあるPCもワームに進入され、HPが改ざんされるという事件が起きてしまいました。ただ発見されるのが早かったので大事には至らなかったのですが、ゾッとする出来事でした。

今は既に復旧されHPもすべて取り除かれました。また、被害も特に無く研究室HPの改ざんもかなり一時的なものなので何事も無くサーバが稼動しています。ですがこのようなことが無いように日ごろから意識をすることが大切であると思います。(M2 栗原)



# 秋田大学生協手形キャンパス 全面リニューアル

吉村研究室のOB、OGの皆さんのなかでも大学生協にお世話になっていた方々も多々いらっしゃると思います。その大学生協が昨年10月に新しく生まれ変わりました。そこで今回はリニューアルした大学会館を紹介したいと思います。



約30年前に建設された大学会館は、22年前の一部二階増築を経て、今回さらに増床・全面改修が行われ、昨年の10月15日にリニューアルオープンしました。

新大学会館の一押しは、採光式の吹き抜け天井により、明るく快適な空間となった食堂ホールです。席数が430席から600席に増え、全館冷暖房完備・全面禁煙（喫煙室あり）も実現し、大学の意気込み十二分に感じられます。会館一階には、このほか、四十坪の食品売場「パンショップ」と三十四席の喫茶「マイン」、百四十四席のアメニティ・コナが配置されました。会館二階は売場六十六坪の購買店舗（非食品の購買・書籍・プレイガイド）「手形店」と理容室（業者）、研修室・和室となりました。



秋田大学人の長年の悲願だった新大学会館は多くの人の賞賛の中、開館いたしました。今後、会館を大学コミュニティのシンボルにしていく上で、ソフト面での生協への期待が格段に大きくなったと思います。

## 旧大学会館と新大学会館との比較



旧大学会館



新大学会館

	新大学会館	旧大学会館
総面積	2,937 m <sup>2</sup> (325 m <sup>2</sup> 増)	2,612 m <sup>2</sup>
冷暖房設備	全館ガスヒート式	ボイラー及び石油ストーブ
エレベーター	新設	
トイレ	シャワートイレを導入しました。(9ヵ所)	
食堂コーナー	898 m <sup>2</sup> (619席) 180席増加 自動食器洗浄機を導入しました。 自然採光を取り入れました。	772 m <sup>2</sup> (439席)
食品・弁当コーナー	131 m <sup>2</sup> 衛生上、書籍部と分離しました。	392 m <sup>2</sup> (書籍コーナーを含め)
喫茶室	69 m <sup>2</sup> (32席) 2階から1階に移しました。	70 m <sup>2</sup> (30席)
アメニティコーナー	311 m <sup>2</sup> (144席) 2階から1階に移しました。 テレビ、電光掲示板設置	227 m <sup>2</sup> (談話室)
喫煙室	19 m <sup>2</sup> 新設(個室化としました。)	なし
自動預貯金コーナー	郵便局・2銀行 郵便局を増やしました。	2銀行
書籍・文具コーナー	229 m <sup>2</sup> 1階から2階に移しました。	

(E4 浅野、大荒田、清水)

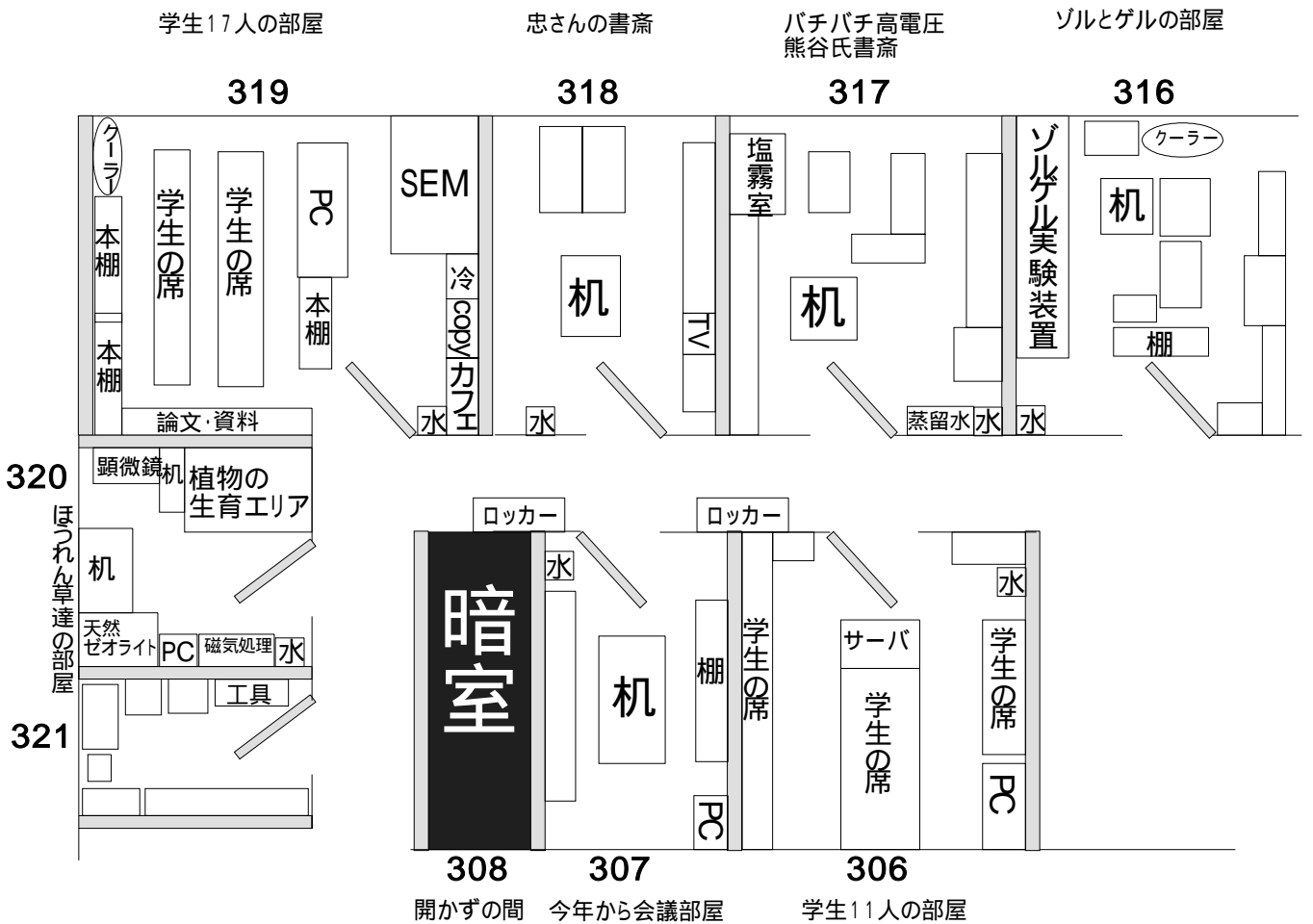
# 研究室紹介

## 最近の吉研

今年は水戸部講師が4階に移住いたしました。D3 1名、D2 2名、D1 2名、M2 3名、M1 7名、S4 13名という大所帯のため、詰め込み状態です。

吉村研究室と長年連れ添ってきたこの研究室達とも、今年の9月付近でお別れになります。ここは皆さんの秋田生活の拠点でありまして、宿泊所でもあり、1日の大半の時間をここで過ごしてきました。さみしいという気持ちはあるかという・・・慣れ親しんだところなのでそれなりにあるわけですが、それ以上に床がめくれコンクリートになり、ドアの立て付けの悪化により鍵の開閉にコツがいり、水道からは飲めない水が出てくるといった現状の中、そろそろ立て替えの時期かと覚悟していました。

改修完了は3月末になる予定らしいので、その際はNEW吉村研究室に遊びに来て下さい。茶会費係よりささやかに接待させていただきます。



(M1 吾妻)

## 年間行事 (01.8 ~ 02.6)

- |     |   |    |   |
|-----|---|----|---|
| 8月  | 夏休みで一息ついた後に4年生の中間発表が行われる。4年生にとっては最初の山場だったが、みんな無事に終了。                        | 2月 | 修論・卒論発表が行われる。ハプニングもあったがみんな無事に発表を終えることが出来た。みんな緊張から解放され、打ち上げでは最高に盛り上がりました。  |
| 9月  | 6名の大学院進学が決まる。   | 3月 | 快晴の春の良き日に、卒業・修了式が行われる。つらい別れだったが、再会を誓いみんなそれぞれ、新天地へ旅立つ。3月は毎日飲んでばかりいた気がする... |
| 10月 | 秋大祭が華やかに開かれる。オープンキャンパスにて4年生は創造工房実習の成果を披露。また、ボーリング大会が開催され、みんなの大活躍によりみごと三位入賞。 | 4月 | 吉村先生が2度目の工学資源学部長に就任。また、新4年生13人が配属になる。配属早々の花見でみんな早くも打ち解ける。                 |
| 11月 | 二回目の中間発表に向けてみんなは研究に没頭している。  | 5月 | 就職活動が始まる。研究室では、就職の話題が飛び交う。全員内定の日が早く来ることを願う。                               |
| 12月 | クリスマスに中間発表というすばらしいプレゼントをもらう。  | 6月 | 就職活動が活発になる。今年も厳しい状況だが、少しずつ内定者も出始めた。<br>(M1 佐々木、都)                         |
| 1月  | 新しい年を迎え、気持ちも新たに卒論、修論にとりかかる。みんなの頭の中は卒論、修論のことばかり。                             |    |   |



## 学生の挨拶

学生代表 渡部 智之

研究室の諸先輩、関係者の方々、この猛暑の夏をお如何お過ごしでしょうか。サッカーW杯も終わり、W杯ボケもある今日この頃ですが、皆様は全国各地で御活躍なさっていることでしょうか。本研究室の新聞『挑戦』も第12号を迎え、吉村研究室の歴史の歩み、重みをいっそう感じております。

さて、今年は吉村先生が工学資源学部長に再度御就任なされました。これまで学部名変更など多くの改革で功績をあげられた吉村先生だからこそ、北東北国立大学統合問題や、国立大学の特殊法人化問題など多くの問題が取り沙汰されている今、工学資源学部長として吉村先生の力が必要とされたのでしょうか。今後更なる御活躍が期待されますが、お体だけは気をつけてほしいものです。

また、12月から水戸部先生がアメリカに転勤になります。寂くなる反面、水戸部先生の下で研究をしている学生は大変だと思います。ご多忙な鈴木先生や忠さんにかかる負担も大きくなり、更にご多忙になるとと思いますが、お体だけは気をつけてほしいものです。このような時こそ学生が今まで以上に自覚を持ち、研究に挑戦(この新聞も挑戦)しなければいけないと思います。アメリカから帰られた水戸部先生には、今後更なる御活躍が期待されます。

話は変わりますが、今年はやはりW杯でした。チュニジア戦では輪講の時間を繰り上げ、みんなで試合を観戦しました。このflexibilityも吉村研の良いところではないでしょうか。8月からは電気棟の改修工事で引越しなどがあり、特に4年生はこれから本格的に卒業研究が始まるという時期なので、大変だと思います。

最後に、私が学生代表でびっくりされている方も多いと思いますが、本人が一番びっくりしております。智之大丈夫か?とお思いになっているかと思いますが、大丈夫ではありません。しかし私は、吉村研究室に入って、すばらしい先生方、諸先輩、同輩、後輩に恵まれ本当に良かったと思います。頼りない私ですが、バイタリティを生かし研究室のお役に立ちたいと思っております。皆様には今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしく願いいたします。

## 編集後記

W杯では日本代表が16強という快挙を成し遂げ、吉村研究室のOB、OGの皆さんもさぞ盛り上がったことと思います。

さて今回の“挑戦”第12号はいかがだったでしょうか。卒業後は仕事が忙しく、大学には興味の無いという方々も、この新聞を読んで現在の吉村研や秋田大学の状況を少しでも知ってもらえれば光栄に思います。

今年是一号館の改修や水戸部先生の海外への長期出張など、いろいろと不安なことだらけではありますが、優秀な吉村研究室の学生であれば、みんなで力を合わせてこの危機を乗り越えることは余裕だと確信しています。

研究室新聞“挑戦”へのご意見、ご感想を心よりお待ちしております。連絡先は、下記に示す通りです。

最後に、この“挑戦”を作成するにあたり快く寄稿を引き受けて下さいました吉村先生、記事のチェックをして頂いた水戸部先生、また各編集委員並びにご協力された方々へ感謝の意を表します。

(M2 博山)

〒010-8502

秋田県秋田市手形学園町1-1

秋田大学工学資源学部電気電子工学科

電気エネルギー工学講座 吉村研究室

水戸部 一孝

E-mail mitobe@ipc.akita-u.ac.jp

### 吉村研新聞委員会

顧問	水戸部 一孝
編集委員長	博山 幸輝 (M2)
副編集委員長	吾妻 辰則 (M1)
	佐々木 友也 (M1)
	都 泰紀 (M1)
編集委員	浅野 聖一 (E4)
	大荒田 直樹 (E4)
	清水 俊郎 (E4)
協力	栗原 大輔 (M2)